

2008 年度

科目名 総合講座Ⅱ	対象学科・学年 文学部日文3 回生	担当者 鈴木 利一
授業テーマ 萬葉集を中心とする上代日本文学の研究		
授業の概要と目標 萬葉集は、成立当初の原本が残っていないため、萬葉歌を読むためには、後の時代に写し伝えられた書写本を手がかりに、原本の姿を推定復元する作業が必要です。演習では、各自が担当した一首について、それぞれこの作業を行う一方で、あらゆる角度から作品を分析し、その成果を資料にまとめて発表して行きます。演習参加者は、発表者との意見交換を行い、上代の語法や語彙の知識、表記に用いられている漢字や漢語の素養等を共に深めて行くことを目指します。		
評価方法 講義への出席状況 (40%)、課題の提出状況 (40%)、課題に取り組む姿勢 (20%) 等を勘案し、総合的に判断します。		
テキスト 『補訂版 萬葉集 本文編』	著者 佐竹昭宏・木下政俊・ 小島憲之	出版社 塙書房
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 本年度は、萬葉集巻九秋雑歌に収載される短歌作品を、以下の順序で読み進めることとします。 1 担当を 2～3 週程度とし、これを進行の目安として進めていく予定です。 1. 一六六四番歌 2. 一六六五番歌 3. 一六六六番歌 4. 一六六七番歌 5. 一六六八番歌 6. 一六六九番歌 7. 一六七〇番歌 8. 一六七一番歌 9. 一六七二番歌 10. 一六七三番歌 11. 一六七四番歌 12. 一六七五番歌 13. 一六七六番歌 14. 一六七七番歌 15. 一六七八番歌 上代は、残されている文献資料に限られているため、可能な限り資料探査に努めて下さい。また、新たな資料探査法としてインターネット上の図書館・研究期間のサイトを利用することも必要になってきます。そうしたオンライン情報や電子データの取り扱いについても、機会のあるごとに解説し指導していく予定です。さらに、民俗学や歴史学・考古学等の関連諸学による成果にも触れ、総合的な視点から萬葉歌をとらえる能力を養っていきます。萬葉集を中心とする上代日本文学の研究		